おんがく広場 ♪Music Square♬
第293号
令和8年(2026)1月24日(土)
発行・クッキー会　発行責任者・加藤良一
Facebook,Twitterにも掲載／リンクフリー／御自由にコピーして下さい　令和2年(2020)4月10日創刊
連絡先　rkato@max.hi-ho.ne.jp

お好み焼きで誘われ合唱指揮者に

柳河を柳川で歌う会

合唱指揮者　河原　敬

新歓で捕まり、お好み焼き屋へ

52年前大阪外国語大学英語科に合格した僕は、意気揚々と桜並木の大学構内を歩いていた。すると怪しげな男ばかりの集団に取り囲まれた。グリークラブの勧誘だという。グリーとは何かすら全く判っていなかった。安物の紺色ブレザーにペラペラの赤いネクタイ。灰色のズボンもシワだらけである。とても気味の悪い人たちだった。

当時の僕は自宅浪人していて人恋しかった。髪を長く伸ばした天然パーマの人に捕まった。僕の顎を撫でて、「おお！この鰓(えら)はいい声の出る証拠だ！」とかいう。お好み屋に連れて行かれて胴上げされた。

グリークラブは同年代、年功序列で組織されていた。どうも今から考えると、僕の世代は「不作」の世代だったのかもしれない。2年後、「まあこいつでいいやろ！」消去法で学生指揮者に選ばれてしまった。

高校はずっと書道選択だった。音楽の「ヲ」の字も知らない。指揮者なんか務まるわけがないではないか！　合唱団に出向くと大相撲の立ち会いの時の「見合って見合って！」「ハッケヨイ！」「待った！」のように緊張した。振り始めは必ずといってほど失敗した。自慢ではないが「史上最低の学生指揮者」とあだ名をつけられた。後輩から「何もしないで立っていてくれたらいい」とマジで忠告を受けた。

河原 敬　Kawahara Takashi

大阪外国語大学(現大阪大学）外国語学部・英語学科卒／桃山学院大学文学部・大学院・日本語日本文化学科修了／トゥレーヌ甲南学園(フランス・トゥール)英語科、四天王寺高校・大阪桐蔭高校英語科元教諭／桃山学院大学文学部非常勤講師(論文作成担当)／学園前合唱団 代表・指揮者／「柳河風俗詩を柳川で歌う会」代表／男声合唱団TonkaJohn代表・指揮者／日本男声合唱協会会員／ハワイ国際合唱祭元理事・ウクライナ支援第九合唱団団長

kawaharatakashi1214@gmail.com

卒業演奏でタダタケさんの『柳河風俗詩』を指揮

そうこうしているうちにグリークラブ学生指揮としての卒業演奏が近づいた。選んだ曲は、北原白秋作詞・多田武彦作曲男声合唱組曲「**柳河風俗詩**」だった。

北原白秋が福岡県柳川市沖端(おきのはた)出身であることも、多田武彦が清水脩に師事した時に、習作・処女作としてこの曲が産まれたことも全く知らなかった。(清水脩は大阪外大グリーOB) この曲をなぜグリー卒業演奏の曲に選んだのか、今となっては全く憶えていない。

その後色々あったがここでは省略する。

- 2023年4月 「**柳河を柳川で歌う**」という企画を立ち上げた。記念館ロビーで歌った。「**柳河風俗詩プロジェクト**」開始。
- 2024年3月 「**桜の柳川で柳河を歌う**」船に乗り込んで歌った。三柱神社でフラッシュモブを決行した。
- 2024年11月 第44回柳川市小学校白秋音楽まつり(水都白秋ホール) **男声合唱団「TonkaJohn」**を指揮した。市の小学生全員に男声の響きを聴いてもらうことができた。
- 2025年6月 奈良市JR京終駅で**学園前合唱団**ライブ。11月 奈良市西部公民館文化祭(学園前ホール)で全四曲演奏。12月 **ハワイ・ホノルルで2回公演。混声「柳河風俗詩」を指揮**した。ハワイ国際合唱祭の理事をしたご縁である。

ハワイで『柳河風俗詩』を混声で歌う

学園前合唱団は男声が多忙のため日本からは僕以外参加できなかった。急遽ホノルルコラール(ジョイント相手)の男声が助けてくれることになり、事前に歌詞をローマ字で書き込んだ楽譜を送った。

結局、本番まで2回の練習で仕上げなければならなかった。第四曲「**梅雨の晴れ間**」、「回せー回せー」を最初からシンコペーションで歌われてしまった。「😣あちゃー」 フルトベングラーの言葉通り、悪いのは「指揮者である」

「ノスカイヤ(遊女屋)」「バンコ(縁台)」「ケツグリ(かいつぶり＝鳰(にお))」、「狐六法」(歌舞伎の所作)」などと日本人にもわからない言葉を外国人に説明できるわけもない。

合唱曲に言葉の説明はいらないとか、音楽自体の持つ普遍性が証明されたとかはこの際言わない。訳のわからない組曲をハワイくんだりまで来て歌うという蛮勇ぶりを哀れと思し召したのであろう、イリカイホテルのロビーでもカネオへの老人ホームでも聴衆は温かい反応であった。

編集委員：江川善裕、大島誠一郎、加藤良一(責任者)、新祖章、野口享治、星野英明、南めぐみ　　バックナンバーは**こちら**でご覧ください

「柳河風俗詩（混声合唱）を白秋先生記念館ロビーで歌うコンサート」開催

来る3月29日(日)福岡県柳川市沖端・北原白秋生家記念館ロビーを高田杏子館長のご厚意でお借りし「柳河風俗詩」を混声で演奏する。入場料のみで聴いていただける。若干名、歌い手を募集している。

現在、日本各地から、九州各地から、ハワイからも有志が集合する。(ホノルルで歌ってくれた助っ人たちもそれなりに楽しんでくれたのかもしれない。嬉)

タイ・バンコクグリークラブの団長も参加してくれるかもしれない。実を言うとタイ在住のこのひとが冒頭、僕のエラを褒めて合唱の道に迷わせた張本人である。

畢竟(ひっきょう)、人生は一寸先は闇ではある。しかし古希を過ぎて思う。人生とは「全身真っ白の犬」のようなものだ。そのココロは人生とは「ヲモシロイ」w。

2023年4月16日・11月15日福岡柳川で指揮

心を奏で、笑顔を繋ぐ
鷲宮ウインドアンサンブル演奏会

Playing with heart and connecting smiles

サクソフォーン奏者の**江川善裕**さん(『おんがく広場』編集委員)が指揮を務める**鷲宮ウインドアンサンブル**の第33回定期演奏会が開かれました。鷲宮ウインドアンサンブルは、埼玉県久喜市の市民吹奏楽団です。今回の公演ではトランペット奏者の**川上鉄平**さんがゲスト出演し、そのトランペットは伸びやかで輝かしく、かつふくよかな柔らかな響きが魅力的に調和し、聴衆を楽しませていました。

❒1月12日(月・祝)　久喜総合文化会館大ホール

第1部は澄んだ秋の調べと温かな旋律が会場いっぱいに奏でられました。『秋空に』(上岡洋一作曲)は、爽やかな旋律が秋空を思わせるマーチ。続くチャイコフスキー『弦楽セレナード第1楽章』(抜粋)は、小澤征爾が病後の復帰公演で選んだ感動の曲。そして『ベニーのためのバラード』(スパーク)は、わが子への優しい愛情が溢れる美しいバラード。最後のパーシー・グレインジャー『リンカンシャーの花束』は、イギリス民謡の素朴な魅力が光る3曲(リスボン、ホークストウ農場、行方不明のお嬢さんが見つかった)でした。

第2部はトランペット・川上鉄平さんとサックス・江川善裕さんの夢の共演。まずは軽快で洗練されたフュージョンサウンドの『サバナ・ホテル』(T-SQUARE)。続いて、「美の巨人たち」テーマ曲で感動的なバラード『エターナル・ストーリー』。川上さんへのインタビューを挟んで、最後は、エリック・ミヤシロのダイナミック編曲で、高揚感たっぷりの『宝島』でした。

第3部の最初は2CELLOSの『影武者』。チェロに代ってチューバ＆コントラバスの激しいバトルが迫力満点でした。続いて、ジブリの名曲『もののけ姫　メドレー』。「生きろ。」のメッセージが胸に響きました。最後は『アフリカン・シンフォニー』。アフリカの大地を思わせるリズムとドラマチックなメロディで、大いに盛り上がりました。

<ゲスト・プロフィール> 川上鉄平　KAWAKAMI Teppei

江川善裕さん　川上鉄平さん

大阪府出身のトランペット奏者。奈良県天理高校、東京藝術大学卒業後、クラシックからジャズ・ポップスまでジャンルを超えて活躍。これまでに東京フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、兵庫県芸術文化センター管弦楽団、グランドフィルハーモニック東京、シエナ・ウインド・オーケストラ、ブルーノート東京オールスタージャズオーケストラなどの客演、蜷川幸雄演出舞台、宝塚・ミュージカル、Superflyや DREAMS COME TRUE等のアーティストライブ、映画(キネマの神様、天気の子等)・テレビCMのレコーディングに参加。吹奏楽指導や後進育成にも力を入れている。